



書首

源氏物語
卷十





四
十

○河津廿四卷名絶めへえ法
○花以奇為卷名ほ氏五十一歳の春也秋もしるるなり世止世秋うせはう

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○世止 細一年よりひはるる若菜巻よるなり
そのらよともうらよらひはる也

○あひまきをを 或抄 諸氏の心とあひまき
 拜々念しくふさふさしくもわづらひしやうしやうしやうし
 といふ人君をさるるべし

○後の世れり 孟堂上の蓮傍也

○かひらうはよ 細員と人しるし

まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし
 まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし
 まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし

○この世は世なり 細橋氏の心也世上の世なり
 しるしあひまきをを

○あま蓮のよ 河一と池中花蓋滿葦々惣是
 往生人各留半座兼葦葉待我爾後同行
 人 法照禪師 五會讚
 ○こうしうし 孟東世とも同蓮の座ととも
 ○あま蓮のよ 河一と池中花蓋滿葦々惣是
 往生人各留半座兼葦葉待我爾後同行
 人 法照禪師 五會讚

八十八

まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし
 まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし
 まくしあひまきをを
 しやうしやうしやうし
 拜々念しくふさふさ
 しやうしやうしやうし

八十八

細世上の巻也

○申く山水の或世世上のまういおとそとそ
出家でハ申く心とまんとそとそ

○あふふ手 弄 浅きと清き
細花鳥のあふふと云利と云河海は浅
と云と云此説可然也

○あふふとて 孟世上の心出家のまうとそ
のやうおとそとそ

○うりく 或世世上の巻と恨也

○我世世も 細世上のまうの罪ありと前よ
いふうりくをわたりとまうとそとそ
いふうりくをわたりとまうとそとそ
世とそとそとそとそ

○我世世の 孟世上の三宗院とそ生立路の私
のまうとそ也
○七世の法眼 孟世上の巻とあり

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text above. It consists of approximately 12 lines of characters.

Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of the text above. It consists of approximately 12 lines of characters.

○こころとまゝ 細ほ氏のよてもとくはる

○大くこの四つくひ 孟母氏の大くこのつとめ
よも世上の連こころつとをををぬ也

○うく人まひ人 孟まゆよとむしては事の日
のす也

○まじいの世より 細こらとわつた一人の秋好也
一人の明と世あるくし明と世立后のすうは

○わつり河 棒物

○まじきのころ 孟 一天下の人皆まひん
とまこく一也

○ころりやま 孟 世上一りのまゆまゆふら
ちうしををぬ
○まじきのころ 花つきのころは古さゆれと心
也一本まきまらりのまゆれつらゆれと有
河海よりくし 河法華の本門五百塵點劫
の心也

○ちんちんのれうりち 花 鹽藏とちんちんの
廂よりくとまらとてませんの調度
まくと置ふ也 弁 道場をわくふまよ世上
おくまると北の庇花 故里明石の高を二条院

○まじきのころ 孟 一天下の人皆まひん
とまこく一也
○ころりやま 孟 世上一りのまゆまゆふら
ちうしををぬ
○まじきのころ 花つきのころは古さゆれと心
也一本まきまらりのまゆれつらゆれと有
河海よりくし 河法華の本門五百塵點劫
の心也

○ちんちんのれうりち 花 鹽藏とちんちんの
廂よりくとまらとてませんの調度
まくと置ふ也 弁 道場をわくふまよ世上
おくまると北の庇花 故里明石の高を二条院

○ころろくへ 或敷 ころろく

○ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也

○ころろくへ 巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ

ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也
巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ
ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也
巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ
ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也
巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ
ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也
巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ
ころろくへ 孟 堂上 次 あり ころろく け 也
巴 敷 惣 別 々 ころろく ころろく せ

○中宮 明石 中宮 也 ころろく 始て 中宮 ころろく 二 条 院 二 行 啟 あり

○東の ころろく 花 二 条 院 の 東 對 中宮 の 山 依 不 也 寢 殿 ころろく して あり 作 じ ころろく 中 門 南 階 ころろく あり ころろく して 寢 殿 也 堂 上 住 ぬ 并 東 對 中宮 の 依 不 あり 堂 上 の 寢 殿 二 待 候 ころろく ころろく 堂 上 の 西 對 也 堂 上 西 對 ころろく 可 然 也 共 二 可 叶 堂 上 二 条 院 西 對 也 或 敷 諸 被 説 ころろく 不 同 弄 花 説 可 然 也 但 可 依 不 也 諸 被 可 見 合

○此 世 の あり する 巴 敷 宮 ころろく ころろく ころろく ころろく 入 思 ころろく ころろく

○ころろく ころろく 河 名 對 面 后 宮 行 啓 儀 六 府 以 將 以下 一 負 近 衛 等 供 奉 装 束 同 行 業 其 外 宮 司 兼 中 女 將 者 帶 弓 箭 供 奉 入 内 後 玉 御 名 對 面 宮 司 同 之 諸 衛 不 脱 弓 箭 着 饗 座 矣 花 名 謁 八 行 啓 の 時 あり 行 啓 あり 寢 殿 あり ころろく ころろく 堂 上 也 名 對 面 二 供 奉 の 公 知 ころろく ころろく ころろく ころろく 也 巴 敷 明 石 宮 ころろく 堂 上 二 對 面 也

ころろく ころろく 河 名 對 面 后 宮 行 啓 儀 六 府 以 將
以下 一 負 近 衛 等 供 奉 装 束 同 行 業 其 外 宮 司 兼 中
女 將 者 帶 弓 箭 供 奉 入 内 後 玉 御 名 對 面 宮 司 同 之
諸 衛 不 脱 弓 箭 着 饗 座 矣 花 名 謁 八 行 啓 の 時 あり
行 啓 あり 寢 殿 あり ころろく ころろく 堂 上 也 名 對 面 二
供 奉 の 公 知 ころろく ころろく ころろく ころろく 也 巴 敷
明 石 宮 ころろく 堂 上 二 對 面 也

○細中宮の御名の中也何と云ふ
よき御名を御名

○細中宮の御名の中也何と云ふ
或抄いままの遺言のやうなる也
年一つづき細中宮の方より

○此人の或抄はより
孟久しつづき人の我り
さうんやまの心とてわけて中宮の御名

○河 中宮季の讀經也
細中宮の御名
或抄西對(人)

○三宮ハ 細 自兵部御宮也五歳より

○孟 白宮の返答也

○孟 白宮の返答也

○今上也 官より中宮也
或抄 堂上の親育ちの御名

○或抄の御名

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the printed text above.

Handwritten text in cursive style, likely a transcription of the printed text above.

○あしなまのり 孟 又堂上白宮の約也

○佛もちり 可若人散乱心乃至以華供養於孟
像漸見孟數佛 法華經
曾非種處思元亮為是花時供世尊 菅家
細堂上我身とハのゆるふ心歎也 西行 佛もちり
の花とよそまづれとよふも世心も一人

○此もやと 聖宮 孟 白宮と世宮と

あしなまのり 孟 又堂上白宮の約也
佛もちり 可若人散乱心乃至以華供養於孟
像漸見孟數佛 法華經
曾非種處思元亮為是花時供世尊 菅家
細堂上我身とハのゆるふ心歎也 西行 佛もちり
の花とよそまづれとよふも世心も一人

○くしんまのり 孟 今もまのり也

孟 丹發のあしなまのり
今もまのり 孟 今もまのり也
或はまのり人のこしんま 和泉式部
或はまのり人のこしんま 和泉式部
今もまのり 孟 今もまのり也
或はまのり 孟 今もまのり也

○今もまのり 孟 今もまのり也

あしなまのり 孟 今もまのり也
佛もちり 可若人散乱心乃至以華供養於孟
像漸見孟數佛 法華經
曾非種處思元亮為是花時供世尊 菅家
細堂上我身とハのゆるふ心歎也 西行 佛もちり
の花とよそまづれとよふも世心も一人

○あるまじく 細 葉上中宮の御つくまひと
やうしりも也

○きよみ又ちりあひ 巴抄中宮と
無念

○ひまわりやせ 細 葉上也

○此世の花乃 弄 々々々々々々々々々々々々
うらもるる人し

細葉上中宮の御つくまひと
やうしりも也
巴抄中宮と
無念
ひまわりやせ
細 葉上也
此世の花乃 弄
うらもるる人し

○うらもるる世と 孟 世よらへ
とあひまらぬ躰也 巴抄ありあのあはれ山
うらもるる世中とあひあはれ

○あまの人と 或 抄 活氏の初也

○あまの人と 細 中宮のあま人也

○うらもるる 乃 細 世上の心也

うらもるる世と 孟 世よらへ
とあひまらぬ躰也 巴抄ありあのあはれ山
うらもるる世中とあひあはれ
あまの人と 或 抄 活氏の初也
あまの人と 細 中宮のあま人也
うらもるる 乃 細 世上の心也

○とくもろの哥 世上也 弄ぬるのうらまはしき
細くもろの歌をうたふのうらまはしき
まゝのうらまはしき

○きつとめれり 弄 庭前より風の風とス
ころ也 活氏のる心なる人し

○やもせの哥 活氏也 細世上よりこれわき
こころをうたふのうらまはしき
河原もせのうらまはしき 友の音をうたふ
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき

○秋風よ哥 細 中宮の御哥也 世間の無常といふ
我方も草よとてうらまはしき 哥の心也
河原の草は花よとてうらまはしき 草葉のうらまはしき

○うらまはしきと花よのうらまはしき
うらまはしきとてうらまはしき

○今もろの哥 細 世上中宮へ下りて

○うらまはしきと 弄 終焉まで心つひ有るに

足跡もろのうらまはしき
おがしきとてうらまはしき
うらまはしき

まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき

秋風よとてうらまはしき
こころをうたふのうらまはしき
河原もせのうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき
まじりあつて 末の意のうらまはしき

○*Handwritten text*
世上のよき事と云ふ事あり
○*Handwritten text*
百水方への祈の使也

Handwritten text in cursive style, likely a poem or prose.

○*Handwritten text*
今更なる事あり
○*Handwritten text*
今更なる事あり

○*Handwritten text*
河明間夢
○*Handwritten text*
或夢と云ふ事あり

○*Handwritten text*
細心あり

○*Handwritten text*
大侍の君 孟 夕霧とほ氏のよき事也
○*Handwritten text*
今更なる 或夢 ほ氏の夕霧よの事也

Handwritten text in cursive style, likely a poem or prose.

○ちやのちやのちや 弄ほ氏のちや也

○此若乃 細夕霧也

○うらまよまの 細ほ氏の相

Handwritten cursive text in the right column of the right page, consisting of approximately 14 lines of characters.

○ちやのちやのちや 弄ちやのちや也

○あくの或抄 もより大悟のちやのちや也

○ちやのちや 弄光字也

○いのちのちやのちや 弄燈也

○ちやのちやのちやのちや 細つちやのちやのちや也

Handwritten cursive text in the left column of the right page, consisting of approximately 14 lines of characters.

Small vertical text on the left margin of the right page.

Small vertical text on the left margin of the right page.

○人よりしてそそ弄ほ成英うそ野よ出ぬひい
 河東花物語院の廿六の葬送の夜の車はう
 二院あつたけくを好す
 ○りつうとつたがと世後車あるとありとてと

○ひ、大将の 或後 信成の心養上の特ひとて長
 あり候也

さくのぢりぬあつても例のこ
 かねてあつてくさうさうさあ
 ちいさうさうさうさうさあ
 おりさうさうさうさうさあ
 くのぢりぬあつても例のこ
 かねてあつてくさうさうさあ
 ちいさうさうさうさうさあ
 おりさうさうさうさうさあ

○うさいるともの、弄養上の時の奇うさうさあ
 一、ハ也
 ○月のうさう 細 八月廿日葬礼ありし也

○十四日よせ 細世上の十四日よせと十五日よせ
 葬送とてこのほよさうさあ古人の説さうさあ
 世をうさうさあ

○世中あつて 或後 信成の心也
 ○世中あつて 或後 信成の心也
 ○世中あつて 或後 信成の心也
 ○世中あつて 或後 信成の心也

さくのぢりぬあつても例のこ
 かねてあつてくさうさうさあ
 ちいさうさうさうさうさあ
 おりさうさうさうさうさあ
 くのぢりぬあつても例のこ
 かねてあつてくさうさうさあ
 ちいさうさうさうさうさあ
 おりさうさうさうさうさあ

○のちけりて 孟世上人のひんがし
今ちのちのちのちのちのち

○うづまのち 細大将の孝行也

○ひりのつ 花々舞大将の世とわのちのち
うの野分のお也 細大将の心也

○えんごうのちの 弄終季の時とわのち

○渡の玉ハ河念珠は泪の珠とよめらむ有真
花よりわんせしとくつとをいひて我は
とハ玉よつらん

○つりつる哥 夕暮也 細わりし野分のちのち
今このちのちのちのちのち
弄おとつれの夢を名残とて哥より知よとつれ
ふ又詞より哥よつとつれ

○ささけりし念佛 世秋六時の念佛也

○のちけりて 孟世上人のひんがし
今ちのちのちのちのちのち
うづまのち 細大将の孝行也
ひりのつ 花々舞大将の世とわのちのち
うの野分のお也 細大将の心也
えんごうのちの 弄終季の時とわのち
渡の玉ハ河念珠は泪の珠とよめらむ有真
花よりわんせしとくつとをいひて我は
とハ玉よつらん
つりつる哥 夕暮也 細わりし野分のちのち
今このちのちのちのちのち
弄おとつれの夢を名残とて哥より知よとつれ
ふ又詞より哥よつとつれ
ささけりし念佛 世秋六時の念佛也

○のちけりて 孟世上人のひんがし
今ちのちのちのちのちのち
うづまのち 細大将の孝行也
ひりのつ 花々舞大将の世とわのちのち
うの野分のお也 細大将の心也
えんごうのちの 弄終季の時とわのち
渡の玉ハ河念珠は泪の珠とよめらむ有真
花よりわんせしとくつとをいひて我は
とハ玉よつらん
つりつる哥 夕暮也 細わりし野分のちのち
今このちのちのちのちのち
弄おとつれの夢を名残とて哥より知よとつれ
ふ又詞より哥よつとつれ
ささけりし念佛 世秋六時の念佛也

○まのやまの... 世の... 河... 多の...

○... 年... 心也... 卷... 春...

○中官... 細明石中官也

りら... やら... ら... し... ず... ず... ず...

